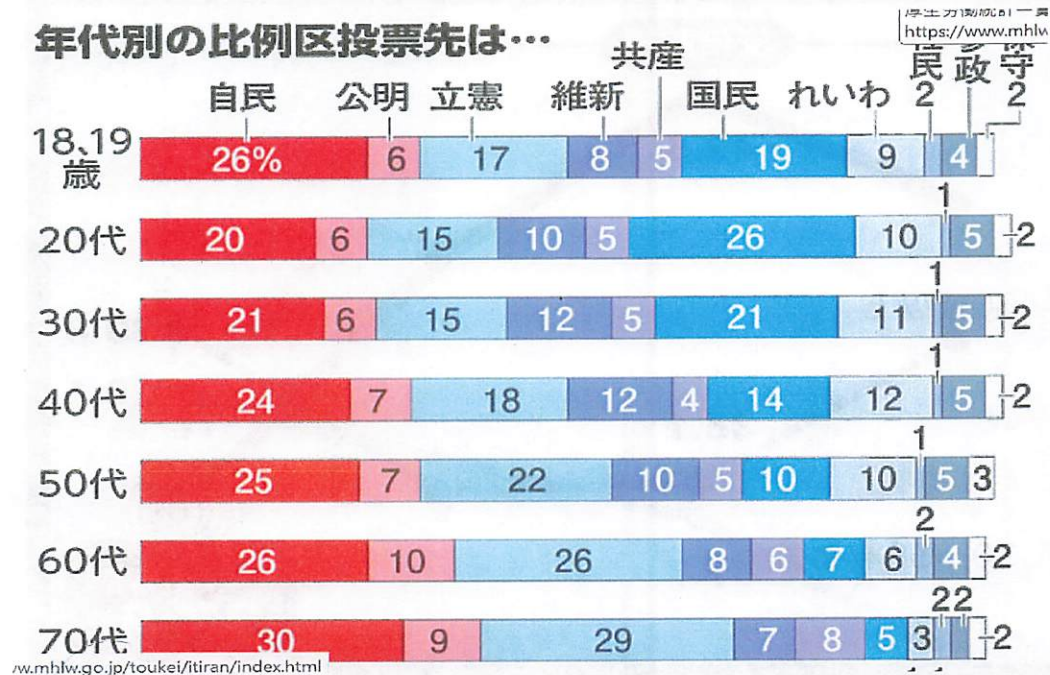
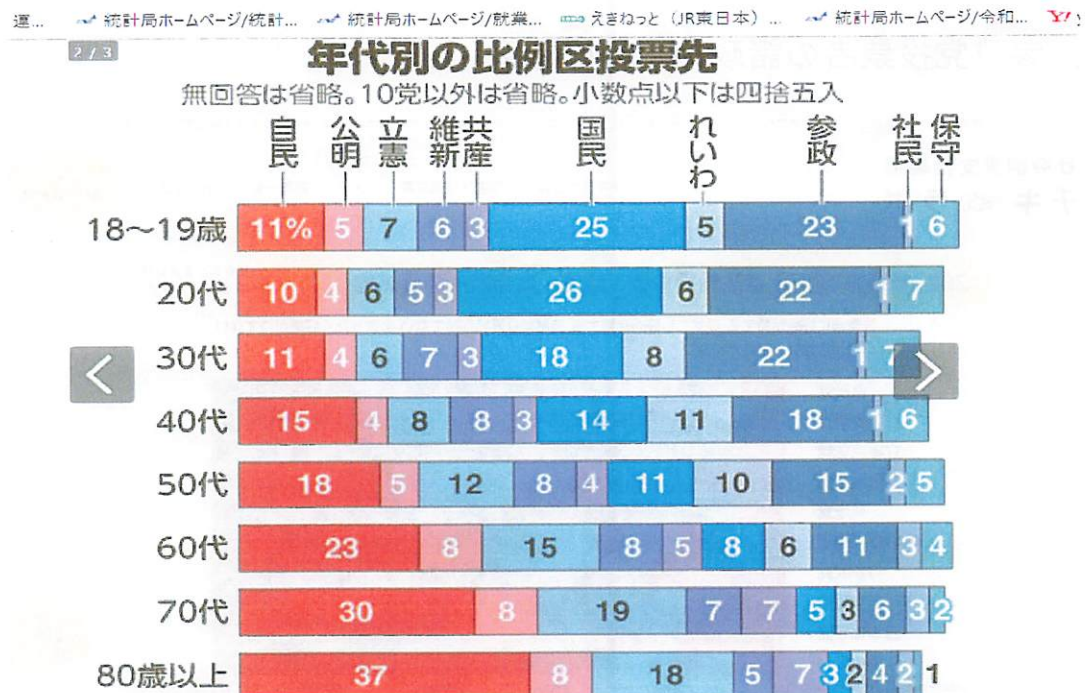


資料 1 若年世代と中堅世代 自民党への「見切り」 22～25 年

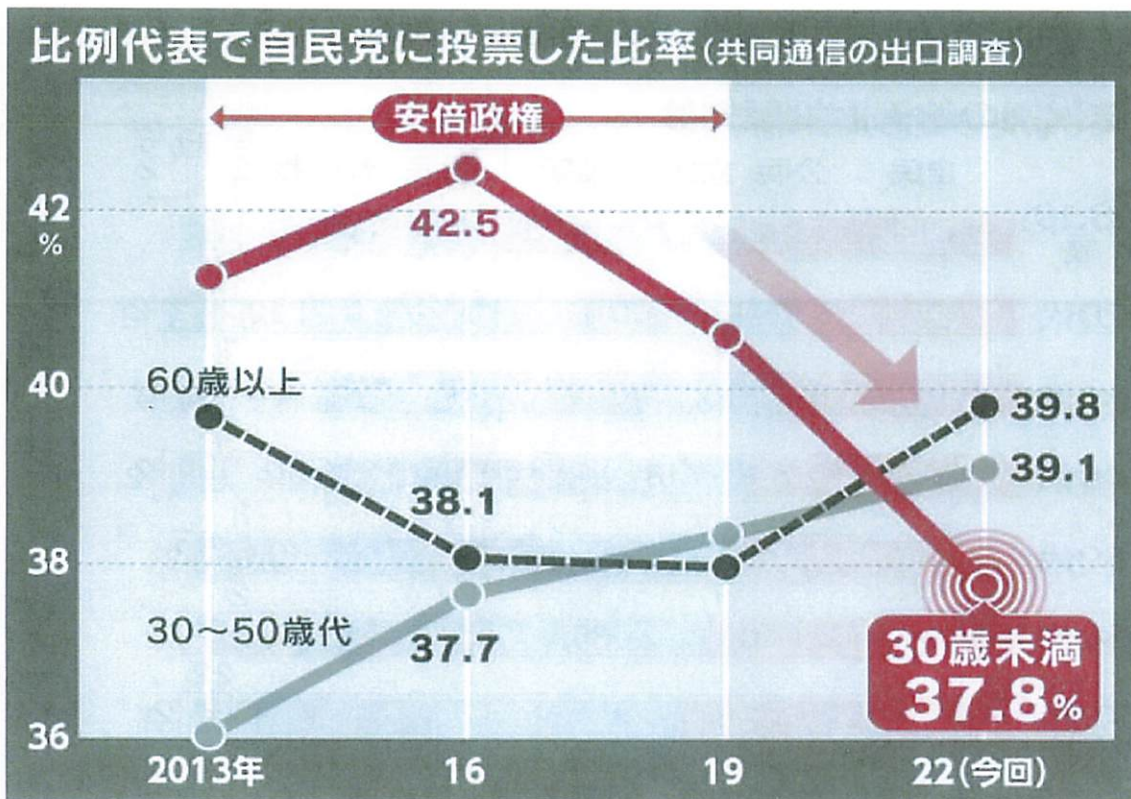
a. 2024 年 10 月衆院選後 朝日新聞出口調査



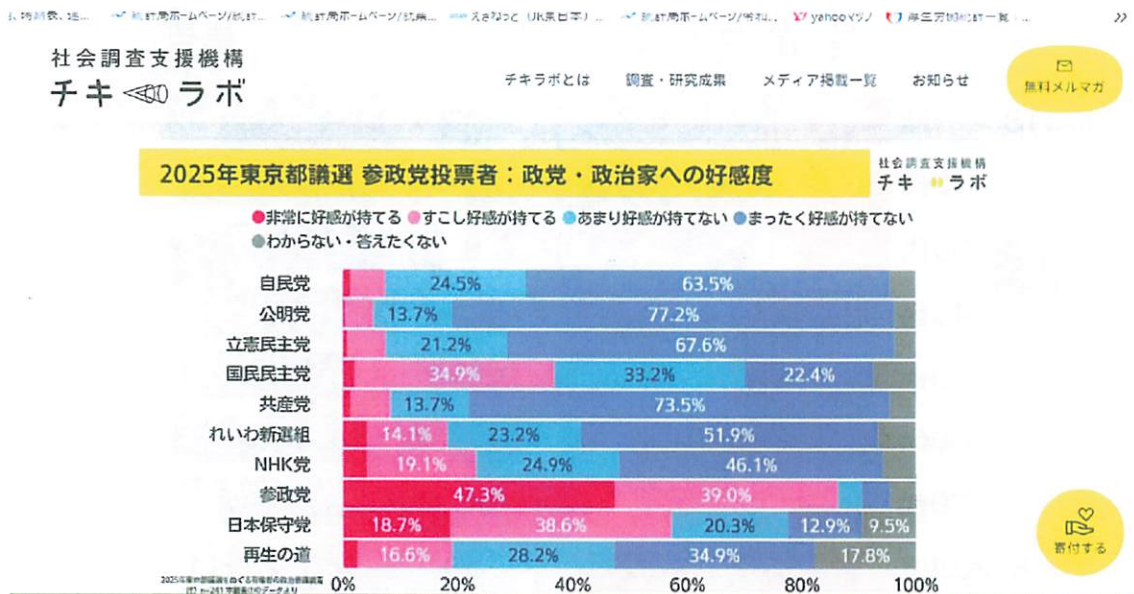
b. 2025 年 7 月 参院選後 朝日新聞出口調査



c. 2013~22 年参院選 共同通信出口調査



d. 参政党投票者の諸政党への好感度



右派諸政党の急拡大と困窮の長期蓄積（改）

2026.1.31 後藤道夫

1. 若年、中堅層の自民党「見切り」と 右派諸政党支持の急拡大

自民 → 参政党、国民民主党、日本保守党

長期の生活困難と生活不安の蓄積 + 急激な物価上昇 + 右派諸政党のあおり
などによる、若年、中堅年齢の保守層、無関心層の不満噴出
政治的变化の中心はおそらく、労働者上層、労働者中層

資料1 図表13,14

大きな背景 困窮の持続的増加と長期賃金低下

図表1,2,4,5

2. 見切って移動した先の右派諸政党（支持層の動向をふくめての評価）

- a. 「手取り」論突出（極端な国民負担率削減主張 **社会保障無視!**）子育て世帯優遇
医療費見直し 高齢者医療たたき
- b. 排外主義、外国人労働者排除、自国ファースト
- c. 対中国、北朝鮮 防衛力強化 「エネルギー確保」のための原発推進
- d. 旧来型秩序意識の称揚（天皇制、反共、家父長制、マイノリティ抑圧）

3. <貧困かつ無配偶>層の大幅増 + 貧困高齢者の大幅増

図表3-1,2

—— 右派諸政党の支持者の目にはっていない大問題 ——

4. 長期賃金低下の実態と背景

図表6,7,8,9,10

—— 右派諸政党は無視 → 右派諸政党は大企業群の別働隊 ——

5. 労働運動の長期低迷 30年間の低迷、困窮をもたらした「失われた50年」 図表12

6. トランプ政権と日本の右派諸政党

☆. 経済グローバリズムと新自由主義への不信、敵意の現れ方

- ・ 右からの反グローバリズム……排外主義、旧来型帝国主義、旧来型差別構造への復古（人種、民族、家父長制、性差、障害、各種マイノリティ）と自国本位主義。 グローバリズムとつながったりベラル派への敵意
- ・ 左からの反グローバリズム……中南米、スペイン等？

*. 「アメリカ・ファースト」のトランプ大統領の政治姿勢への共感、日本でも。

「共感できる」—— 年齢計 28 % 18 ~ 39 歳 54 %

（読売新聞社・早稲田大学先端社会科学研究所 共同世論調査 2025.7）

*. レーガン、ブッシュ期の労働運動抑圧と民主党の変質

民主党に裏切られたアメリカの労働者階級のトランプ政権支持

☆ 日本は？ 自民党と企業社会のグローバリゼーションによる長期裏切を悟り始めた日本の保守派若年、中年。企業主義統合形成・完成以後の大中企業の正社員男性 基本は保守派

e. 中北浩爾（朝日新聞への投稿 2025.2.11）

……………最近の国民民主党には、右傾化の傾向が見受けられます。例えば、読売新聞と早稲田大学の共同調査によると、安全保障の考え方（防衛力強化、憲法 9 条改正、原発再稼働）、自己利益の重視（税金負担縮小、積極的財政出動、自国利益優先）、社会の多様性への考え方（女性の社会進出、外国人労働者の受け入れ、同性婚の法制化）のいずれでも、国民民主党を支持する有権者は、自民党よりも「右」側に位置し、主要政党では立憲民主党の対極に存在しています（『読売新聞』2025 年 1 月 27 日朝刊）。ここからうかがわれるのは、国民民主党の先の衆院選での躍進は、「103 万円の壁」に関する政策的な支持だけでなく、石破総裁になって中道化したことで自民党から離れた保守層が、国民民主党に向かった可能性があるということです

* 「チキラボ」の世論調査でも、国民民主支持者の上記三項目への態度について、自民未満だが近い数値、あるいは、自民を超える数値が報告されている（後藤）。

f. 参政党の「日本人ファースト」への評価 朝日新聞世論調査 2025.7.26-7

	評価する	評価しない
総数	48%	41%
男性	55%	38%
女性	42%	43%
18～29 歳	71%	27%
70 歳代	29%	53%
自民支持層	38%	51%
公明支持層	3 割	
立憲支持層		7 割
国民民主	7 割	